

Bengaluru

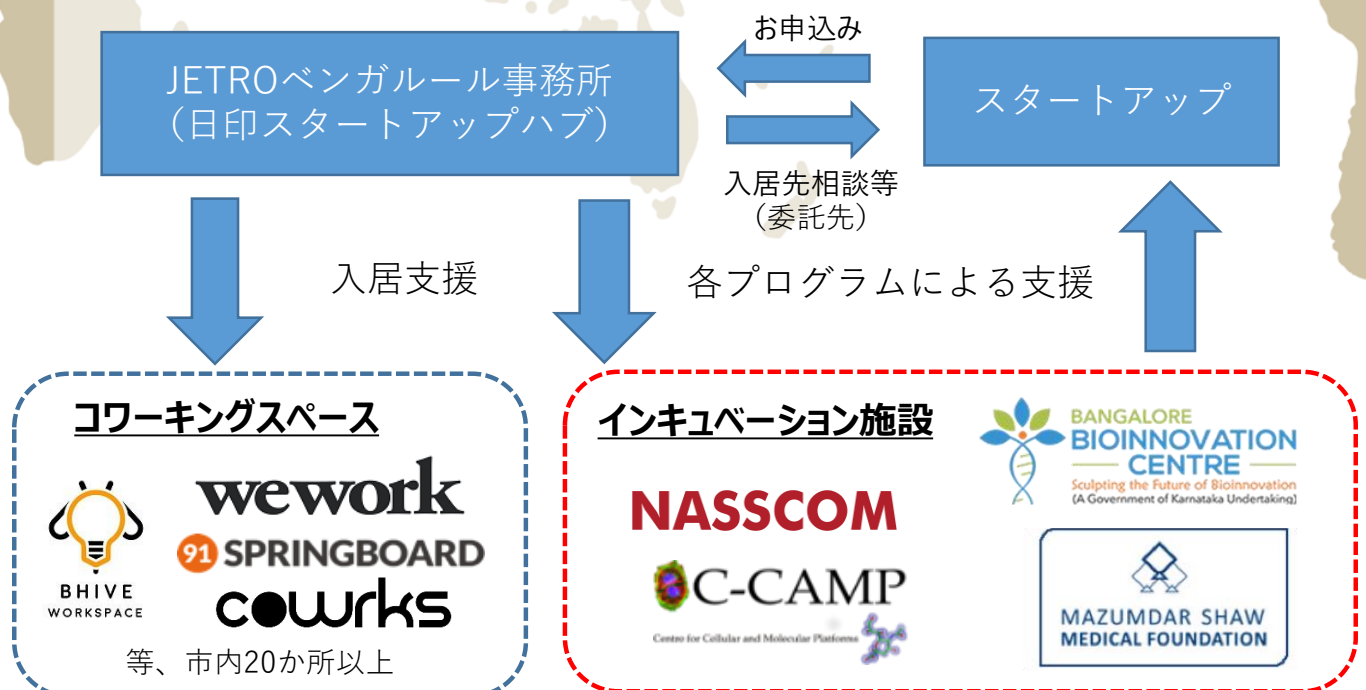
エコシステムの特徴・トレンド

- ◆ 2014年～2019年の5年間で創業した約8900－9200社のスタートアップのうち、その24%はベンガルールで創業。IT分野のみならず、研究施設を要する医療・ヘルスケア分野のインキュベーションを行う施設もあるなど、インド国内最大のスタートアップ拠点。
- ◆ GE、フィリップス、エアバスやCISCO、ボッシュといったグローバル企業がベンガルールに拠点を置き、IT、ヘルスケアや航空宇宙分野等幅広い技術分野でアクセラレーションプログラムの実施等スタートアップとの協業を実施。
- ◆ ベンガルールのハブは、日印両政府間合意により設置された「日印スタートアップハブ」として、コワーキングスペースの他に実験設備等も有するインキュベーション施設の利用・入居や専門家メンター（次ページ）とのオンライン面談も実施。

🔑 コワーキングスペース・インキュベーション施設の利用・入居支援

※インキュベーション施設への入居・利用に際しては、各施設による個別審査あり

※ コワーキングスペース、インキュベーション施設ともに、拠点設立準備とネットワーキング機会を提供するため3ヶ月無料で提供。



Bengaluru

コア・メンター

◆ ベンガルール在住で日印両スタートアップ事情に通じた専門家を委嘱。



RK Misra氏
(Carnegie India)
・日印両国で起業経験あり。
・ベンガルール東京テクノロジー・イニシアティブ (BTTI)を提唱。



Dr. Paul Salins氏
(Mazumdar Shaw Medical Foundation)
・Narayana病院の医師であり、財団の専務理事として医療系スタートアップを多数育成。



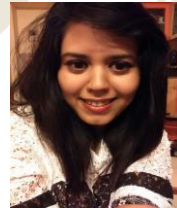
Pranav Pai氏
(3one4Capital)
・アーリーステージのスタートアップ約55社に投資



Navratan Katariya氏
(NASSCOM)
・NASSCOMのIoTスタートアップインキュベーションセンターの責任者



村上 矢氏
(Incubate Advisors India)
・約2年半で12社のスタートアップに投資し、ハンズオンで支援



Prachi氏
(Axilor Ventures)
・アーリーステージのヘルスケア分野スタートアップに投資するファンドマネージャー

インキュベーション施設の利用・入居支援



Mazumdar Shaw Medical Foundation

大手病院グループNarayana病院構内にある先端医療研究開発財団で、臨床研究医チームとともにFS調査できる環境を提供。医療、ライフサイエンス分野のインキュベーションや地元VCと提携したアクセラレーションプログラムを実施。ベンガールの多くの医療ヘルスケアスタートアップが当施設でFS調査を実施。



Bangalore Bioinnovation Centre (BBC)

カルナータカ州の資金により設置されたバイオ・創薬系インキュベーションセンター。科学技術省の支援も受けて揃えた最先端の研究機材を共用施設としてスタートアップに提供。インキュベーション施設入居の他、施設利用のみも可能。



Centre for Cellular And Molecular Platforms(C-CAMP)

科学技術省が設置した国立のインキュベーション施設であり、アグリテック、ライフサイエンスに強み。シードレベルから成熟したスタートアップ企業まで幅広く対応する他、ライフサイエンス分野の起業家向けの研修やシードレベルのファンディングも実施。



NASSCOM Centre Of Excellence(CoE)-IoT

インドソフトウェアサービス産業協会 (NASSCOM)は、インド政府や州政府の支援を受けて本部のあるベンガルールでAI/IoTやデータ分析のスタートアップインキュベーションを実施。非常に手厚いインキュベーション環境と日本企業を含む多くのグローバル企業との接点があることが強み。